

## 資料(1) 小規模小学校におけるメリット・デメリット

### メリット

#### 子ども

- 学力 少人数を生かしたきめ細かな指導ができるため、落ちこぼれが少なく、高い学力をめざすことができる。  
(基礎・基本の定着 個別指導の充実 事前準備や場所、内容)  
(個人作業など、時間をかけていねいに指導することができる。特に繰り返し学習するものでは、時間内に何回も挑戦することができ、成果も期待できる。)  
(複式授業 自ら学ぶ子が育つ<主体的な学習者としての子どもが育つ> = 間接指導)  
(少人数指導 個に寄り添った具体的な指導)
- 徳目 係活動、学校行事、対外活動等で一人一人の果たす役割が大きく、その活動を通して、自覚と責任感を高めることができる。  
(自主性・責任感・リーダー性・愛郷心・愛校心等の高まり)  
子ども相互、特に異学年との信頼関係や相互理解が深まる。  
(縦割り班活動・・・一緒に遊べる、教え合い助け合う  
生徒指導・・・問題点の早期発見、早期手当がしやすい)
- 体力 自然の中でのびのび生活できる

#### 教員

- ・ 家族的な学校経営(心を育てる教育)
- ・ 子ども一人ひとりを把握しやすく、個性や特性に応じた教育活動ができる。  
(全職員が児童を理解できる)  
(軽度な発達障害児童への対応や、基本的な生活習慣、生徒指導がきめこまやかにできる。)
- ・ 子どもについての情報の収集、学校からの情報提供がしやすい。
- ・ 職員の協力が図りやすい
- ・ 教師支援 対話と朱記(ノート指導、個別の助言・・・個々の追究の進化)

#### 学校

- ・ 地域の活性化の中心
- ・ 地域文化の発信基地
- ・ 学校行事の修正変更が容易  
(子供の状況に応じて計画を変更できるので、学校運営がスムーズ)
- ・ 安心安全な学校生活の保障・・・互いが分かり合える環境の中で  
(地域に児童の顔・姿・性格等知れ渡り、地域の目がゆきとどく。)
- ・ 地産地消が推進しやすい。地域の安全な食べ物が確保しやすい。
- ・ 運動場や特別教室、校舎内の設備など、一人分を余裕を持って使うことができる。

#### 地域

- ・ 「おらが学校」・・・地域の学校に寄せる期待が大きく、学校は地域の拠点
- ・ 一体(学校・家庭・地域)・・・
- ・ 外部講師を依頼しやすい
- ・ 地域教材が活用しやすい(歴史・伝統・人材・自然・・・)
- ・ 「地域総ぐるみ」で体験豊かな教育活動
- ・ 三世帯家庭が多く、お年寄りとのふれあいがあり、優しい気持ちの児童が多い。

# デメリット

## 子ども

### 学 力

- ・ 学級対抗がないなど、切磋琢磨する機会が少ない。競争意欲が乏しくなりやすい。
- ・ 多様な考えや価値観を持った児童との出会いに恵まれにくい。知的刺激が少ない。
- ・ 合唱・合奏など、そのハーモニーの素晴らしさを体感できにくい。
- ・ 人数が少ないため、学習の場で、話し合い活動の場、発表の場が作りにくい。(話し合いをする人、発表を聞く人が少ない)

### 徳 目

- ・ 友人関係の固定化や序列化を招くおそれがある。人間関係が壊れると修復がむずかしい。
- ・ お互いの気持ちを気遣うことがあり、自分の意見をはっきりと伝えられないことがある。
- ・ 忘れ物などしてもすぐに貸してもらえするため、平気であることがある。
- ・ 集団の中で培われる力が育ちにくい(我慢する力、集団の中で生きる力、集団のルール等)
- ・ クラス替えなどの新たな人間関係を進んで構築する経験ができない。
- ・ 協調性を養う機会が少ない。
- ・ 清掃活動のとき、1人分の作業範囲が広く、大変である。(真剣にやらざるをえない。)
- ・ 運動会や学芸会などの行事では、活躍の場は多いが、かえって、苦手な子どもにとっては、大変な負担にもなる。
- ・ 全員が参加しなければ活動が成り立たず、個の選択ができないケースがある。そのことが子どものストレスになってしまうことがある。

### 体 力

- ・ 体育のゲームがダイナミックにされにくい。
- ・ 球技大会などの練習ができず、チームとして大会の参加ができない。
- ・ 集団でのスポーツ競技(野球・サッカー・ドッジボール等)が十分できない。

## 教 員

- ・ 教師の目が届きすぎ、支援が多くなりやすい。
- ・ 教師と子ども、保護者がなれあいになりやすい。
- ・ 授業展開が単調になりやすく、内容が深まらなくなる。
- ・ 新任・若手教員の育成が難しい。
- ・ 複式学級での学年差・能力差に応じた指導、個への配慮についての難しさ、大変さを感じる。
- ・ 教員間の教材研究や指導方法について、単独で取り組む状況になりやすい。
- ・ 教職員が出張や病気で欠けることがあるが、教職員が少ないので、その補充は大変である。

## 学 校

- ・ 学校図書、教材教具等の種類が少ない。  
千郷小の蔵書数 11,800冊(706人) 連谷小の蔵書数 2,865冊(20人)  
児童1人あたり読むことができる本は、小規模校は限定される。
- ・ クラブ活動や委員会活動など、必要な人数が集まらない。
- ・ 運動会、学習発表会等の学校行事の運営がやりづらくなる。
- ・ 男女のアンバランスが生じやすくなる。

## 地 域

- ・ 家庭が学校に期待しすぎてしまい、地域や家庭での役割を学校に任せすぎる傾向が出てくる。
  - ・ 遠足や校外学習においてバスを利用する場合、一人一人の負担額が大きくなる。
  - ・ プール当番等、保護者の負担増。
- 安全、安心な登下校を考えると、集団が組みにくく保護者に依頼する部分大きい。

## 資料(2) 小学校及び幼稚園・保育園の保護者意識調査

### 保護者アンケート調査のお願い

新城市教育委員会

保護者の皆様におかれましては、日ごろより新城市の教育に関しまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、新城市教育委員会では、市内の公立高校、小・中学校及び幼稚園・保育園の望ましいあり方について検討するため、市教委が委嘱した委員による学校配置研究会を平成19年2月に設置しました。以後、「高等学校の再編成部会」、「小学校の配置部会」、「幼稚園・保育園のあり方部会」を、それぞれ開催してきました。小学校部会と幼・保部会では、現状分析をする中、適正人数、学級数などの研究及び少人数学級のメリット・デメリット、子ども認定園設置などの検討をしてきました。今回、市民の要望や意見を把握するため、下記のように保護者の皆様の意識調査を実施することになりました。お忙しいところお手を煩わすこととなりますが、調査にご協力をくださるようお願いいたします。なお、集約されたアンケート結果については、今後の研究会の参考資料とさせていただきます。

### 記

1 調査対象 市内全小学校の保護者及び幼稚園・保育園の保護者

2 実施時期 平成19年9月10日(月)から9月21日(金)

3 実施方法

各学校、幼稚園・保育園から、お子さんを通じ保護者の皆さんにアンケートを送付します。

保護者の皆さんは、アンケートを実施後、同封の封筒に回答用紙を入れ、封印してそれぞれの学校、幼稚園・保育園に届けてください。アンケート調査は無記名でお願いします。

学校、幼稚園・保育園は、集約したアンケート結果を、そのまま市教委へ9月26日(水)までに届けていただきます。

4 資料 <同学年人数の推移表>

平成19年度4月1日現在(市教委調べ) 単位 人

入学年度 学校名	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19 1年生	H18 2年生	H17 3年生	H16 4年生	H15 5年生	H14 6年生
新城小	44	48	64	68	62	91	84	67	75	89	85	71
千郷小	96	111	109	123	115	139	98	122	113	130	118	125
東郷西	54	44	52	56	48	58	50	56	46	60	54	56
東郷東	36	22	39	30	38	43	47	35	45	42	48	45
舟着小	7	10	9	8	8	16	9	13	10	19	12	28
八名小	21	32	41	32	38	31	46	45	51	41	47	49
庭野小	6	4	5	2	3	10	9	6	3	8	8	4
中部小	23	32	20	34	35	27	39	42	29	34	21	45
鳳来寺	6	4	6	8	2	5	4	4	4	6	0	13
鳳来西	3	6	4	4	4	3	4	4	7	4	9	4
海老小	1	5	1	5	2	1	5	4	2	8	5	2
連谷小	0	0	0	0	3	2	1	1	4	2	0	2
山吉田	2	12	6	8	12	9	6	6	13	12	11	11
黄柳野	2	5	0	1	2	4	2	3	3	4	2	6
東陽小	9	15	11	13	22	28	16	32	29	27	23	20
鳳来東	1	1	4	0	5	3	4	1	7	2	5	8
菅守小	2	0	2	2	5	1	4	1	4	4	1	6
開成小	2	5	5	8	5	5	5	3	7	2	6	8
巴小	8	5	5	4	12	12	11	20	11	20	9	15
協和小	1	3	3	1	2	4	1	2	3	4	6	8





以下幼稚園、保育園に通うお子さんをお持ちの方にお尋ねします。

問(17) 年長児の場合、幼稚園・保育園の1クラスの適正な人数は、何人くらいだと思いますか。  
現在通っている園とは関係なく「適正人数」としてお答えください。

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1 : 25～30人 | 2 : 20～24人 | 3 : 15～19人 |
| 4 : 10～14人 | 5 : 5～9人   | 6 : 4人以下   |

問(18) 年中児の場合、幼稚園・保育園の1クラスの適正な人数は、何人くらいだと思いますか。  
現在通っている園とは関係なく「適正人数」としてお答えください。

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1 : 25～30人 | 2 : 20～24人 | 3 : 15～19人 |
| 4 : 10～14人 | 5 : 5～9人   | 6 : 4人以下   |

問(19) 年少児の場合、幼稚園・保育園の1クラスの適正な人数は、何人くらいだと思いますか。  
現在通っている園とは関係なく「適正人数」としてお答えください。

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1 : 25～30人 | 2 : 20～24人 | 3 : 15～19人 |
| 4 : 10～14人 | 5 : 5～9人   | 6 : 4人以下   |

問(20) どのような保育形態を希望しますか。

自由保育形態(自主自立を重視) 課題保育形態(カリキュラム重視)

- 1 : 自由保育中心で少し課題保育を取り入れる
- 2 : 課題保育中心で少し自由保育を取り入れる
- 3 : 自由保育と課題保育を半々で取り入れる

問(21) どのような保育内容が中心であるとよいと考えますか。

- 1 : 自然との関わりや戸外遊びを重視した保育
- 2 : 情操面を伸ばす保育
- 3 : 知的教育を重視した保育

問(22) 年長児の場合、どのくらいの保育時間が適正だと考えますか。

- |             |           |            |
|-------------|-----------|------------|
| 1 : 6時間以内   | 2 : 6～8時間 | 3 : 8～10時間 |
| 4 : 10～12時間 |           |            |

問(23) 年中児の場合、どのくらいの保育時間が適正だと考えますか。

- |             |           |            |
|-------------|-----------|------------|
| 1 : 6時間以内   | 2 : 6～8時間 | 3 : 8～10時間 |
| 4 : 10～12時間 |           |            |

問(24) 年少児の場合、どのくらいの保育時間が適正だと考えますか。

- |             |           |            |
|-------------|-----------|------------|
| 1 : 6時間以内   | 2 : 6～8時間 | 3 : 8～10時間 |
| 4 : 10～12時間 |           |            |

以上 ご協力ありがとうございました。

<問い合わせ先>

新城市教育委員会 学校教育課

電話 : 0536-23-7652

FAX : 0536-23-7690